

パニヒダ

輔 君や、祝讃しゅくさんせよ。

司 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
詠 アミン

大聯禱

輔 我等安和にして主に祈らん。

詠 主憐めよ。(以下毎次同様)

輔 上より降る安和と我等が靈たましいの救の為に主に祈らん。

輔 此の世を過ぎ去りし者の罪の赦ゆるしを得るが為に主に祈らん。

輔 常に記憶せらるる神の僕(婢)〔某〕に安息と平安と福たる記憶を賜たまわるが為に主

に祈らん。

輔 彼(等)が自由と自由ならざる罪の赦されんが為に主に祈らん。

輔 彼(等)が苦難を受けずして畏おそるべき神の光荣なる台前だいぜんに立つが為に主に祈らん。

輔 泣き悲しみてハリストスより慰なぐさめを受くるを望む者の為に主に祈らん。

輔 我等の主神が彼(等)の靈を光る処ところ、茂き草場、平安の処ところ、諸義人の居おる処に

安息せしむるが為に主に祈らん。

輔 彼(等)がアウラム、イサアク及びイアコフの懷ふところに数え置かるるが為に主に

祈らん。

輔 彼等及び我等が諸もろもろの憂愁うれいと忿怒いかりと危難あやうきとを免まぬるが為に主に祈らん。

輔 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑たすけ救い憐み護まもれよ。

輔 彼(等)及び我等に神の憐みと天国と諸罪の赦ゆるしとを賜わんことを求めて、我等

己の身及び互おのの身の身を以て、並びに悉ことごとくの我等の生命いのちを以て、ハリストス

神に委託せん。

詠 主爾に。

司 蓋けだしハリストス我等の神や、爾は寝ねむりし爾の僕(婢)〔某〕の復活と生命いのちと安息な

り、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

詠 アリルイヤ（三次） 主や、爾が選び近づけし者は 福なり。

輔 詠 アリルイヤ（三次）

彼（等）の記憶は世世に至らん。

輔 詠 アリルイヤ（三次）

彼（等）の靈は福に居らん。

詠 アリルイヤ（三次）

讀 詞 （聖歌譜の歌詞に倣って記載）

深き知恵と仁慈とを以て萬物を宰り、悉くの者に利益なることを賜う、唯一の造物主や、爾が僕（婢）の靈を安ぜしめ給え、彼（等）は爾造成主我が神に侍を負わしめばなり。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

生神女讃詞

信者の救いなる嫁がざる生神女や、我等爾を盾と港及び爾の生みし神に喜ばるる転達として保てり。

安息のトロパリ（第五調）（聖歌譜の歌詞に倣って記載）

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

聖人の群は生命の泉と天堂の門を得たり、願くは我も痛悔を以て道を得ん、我は亡びし羊なり、救世主や、我を呼び返して救い給え。

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

神の羔を傳え、己も羔の如く屠られて、老いざる永久の生命に移りし聖なる致命者や、我等に債の赦しを賜わんことを切に祈り給え。

〔附唱〕 主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

狭く苦しき道を通り、生ける中、十字架を軛の如く負い、信じて我に従える衆人や来たりて、爾の為に備えし誉れと天の栄冠を楽しめよ。（以下省略）
光榮は父と子と聖神に帰す、

一つの神性の三の光を敬み歌うて呼ぶ、無原の父と同無原の子と聖神や、爾は聖なり、我等信を以て爾に勤むる者を照らして、永遠の火より出し給え。

今も何時も世世に、アミン。

衆人の救いの為に、身にて神を生みし浄き者や、慶べよ、人の族は爾に因つて救を得たり、浄くして讃美たる生神女や、願くは我等も爾に因つて天堂を得ん。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や、光荣は爾に帰す。(三次)

小聯禱

我等復又安和にして主に祈らん。

主憐めよ。

又寝りし神の僕(婢)〔某〕の靈の安息の為、及び彼(等)に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。

輔 主神が彼(等)の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。

輔 彼(等)に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕(婢)〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光荣を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

司・詠 附 詠

主や、寝りし爾が僕(婢)の靈を安んぜしめ給え。(二次)
光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第三歌頌

詠 主天しゅてんの穹蒼きゆうそうの至上しじょうなる造成者そうせいしや、教会こうかいの建立者こんりつしや、希望きぼうの限り、信者しんしやの堅めかた、独人ひとりひと

司・詠 附 詠

主や、寝ねりし爾が僕わが（婢）の靈たましいを安んぜしめ給え。（二次）
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第六歌頌

詠 我われ祈いのりを主の前に注そそぎ、我わが憂うれいを彼に告げん、蓋けだし我わが靈たましいは惡に満ち、我いのが生いの命地獄ちじごくに近づけばなり、我われイオナいおなの如く祈る、神や、我われを亡ほろびより引き挙げ給え。

小聯禱

輔 我等復またまた又安和にして主に祈らん。
詠 主憐めよ。
輔 又寝ねりし神の僕（婢）〔某〕の靈たましいの安息の為、及び彼（等）に凡およそ自由と自由ならざ

詠 る罪の赦ゆるされんが為に祈る。

輔 主憐めよ。

詠 主神が彼（等）の靈を諸義人しよぎじんの安息する所に入れ給わんことを祈る。

輔 主憐めよ。

詠 彼（等）に神の憐あわれみと天国と諸罪しよざいの赦ゆるしとを賜わんことを、ハリストス我わが死せざる王及び神に願う。

詠 主賜えよ。

輔 主に祈らん。

詠 主憐めよ。

司 蓋けだしハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原むげんの父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

小讃詞

ハリストスや、爾が僕（婢）の靈を、諸聖人と偕に、疾も悲も歎もなく、
終なき生命の在る處に安んぜしめ給え。

同讃詞

※（左の「」内は省略されることが多い。）

「人を造りし者や、爾は独り死せざる主なり、我等地の者は、土より造られて亦
土に逝かん、爾我を造りし主の命じて我に言いしが如し、爾は土なり、故に土に
帰らんと、我等人々皆彼處に往き、」唯墓の上の嘆に歌いて云うべし。ア Ril
イヤ、ア Ril イヤ、ア Ril イヤ。

司・詠 附 詠

主や、寝りし爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え。（二次）

輔 詠
父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世世に、アミン。
生神女、光の母を、讃歌を以て讃め揚げん。
主や、諸神使と義人等の靈とは爾を讃め揚げん。

イルモス第九歌頌

天は畏れ、地の果ては驚けり、神は身にて人々に顕れ、爾の胎は天より廣きも

のとなりたればなり、故に神使と人々の群は、爾生神女を崇め讃む。

聖三祝文、至聖三者、主経

誦
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の過を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨
は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

司 詠
蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

讃詞

人を愛する救世主や、死せし義人の霊と偕に、爾が僕（婢）の霊を安んぜしめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の霊を安んぜしめ給え、爾独り人を愛する主なればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、
爾は地獄に降りて繋がれし者の鎖を積きたる神なり、親ら爾が僕（婢）の霊を安んぜしめ給え

今も何時も世世に、アミン。
独 潔く玷なき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の霊の救われんことを祈り給え。

重 聯 禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

輔 詠 主憐めよ。（三次）

又寝りし神の僕（婢）〔某〕の霊の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが為に祈る。

輔 詠 主憐めよ。（三次）

主神が彼（等）の霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

輔 詠 主憐めよ。（三次）

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざる王及び神に願う。

輔 詠 主賜えよ。

主に祈らん。

司 詠 主憐めよ。

諸の霊神と諸の肉體との神、死を亡ぼし悪魔を虚うし、爾の世界に生命を賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）〔某〕の霊を、光る處、茂き草場、平安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なるに因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給

え、蓋人^{けだしひと}一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾^{ただ}は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の言は真実なり。

〔高聲〕 蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

輔 詠

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく榮え、貞操^{みさお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 詠

ハリストス神我等の恃^{たのみ}や、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。福を降せ。

司

死より復活せしハリストス我等の真の神は、その至淨なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、克肖^{こくしょう}捧神なる吾が諸神父、亟使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸

聖人の祈祷に因りて、我等に別れし其僕（婢）〔某〕の靈を、諸義人の住所に入れ、アウラムの懷に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして人を愛する主なればなり。

詠

アミン。

永遠の記憶

（一、二、のどちらを用いても良い。）

輔 一、福樂に適いて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠なる哉。

二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其福なる寝りに於ける永遠の安息を与え、彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

詠

永遠の記憶。

（三次）